

人生ハンド仏句

第43号

H. 17. 10. 1
(毎月1日発行)

真実最高のお経

(諸経中の王様)

住職 谷川寛俊

ご承知の通り法華経は、お釈迦様がお説きになったお経です。

お釈迦様は今からざっと三千年昔、インドにお生まれになつていろいろな教えをお説きになりました。それが仏教です。

一般的に言うとお釈迦様がお説きになった教えを文章にまとめたのが「お経」と言うのです。

「一般的に言うとお断りしたのは、法華経だけは違うからです。法華経は単に教えを文章にまとめた、というお経ではありません。法華経には仏様がいらっしやるのです。法華経が仏様なのです。決して単なる文章ではありません。

しかし一般的には、仏様の教えを文章にしたのがお経と理解されても良いです。お釈迦様は御一生の間に色々な教えをお説きになりましたから、お経も大変沢山有るわけです。

キリスト教の聖典「新約聖書」や、イスラム教の聖典「コーラン」などと比較した時、一番の特徴は、仏教聖典の量の多さであります。新約聖書やコーランは一冊の本にまとまっています。お釈迦様は俗に「八万四千」の法門と言われるくらい多くの教えが有ります。そのお経が、シルクロードの遙かな道をたどって中国に渡り、今から千五百年ほど前に日本に伝わってきました。毎日お読みしている法華経も、そのようにして伝わってきたのです。

お釈迦様はインドのマカダ国の王子様としてお生まれになりましたが、青年の頃、城を出て修行され、三十歳で悟りを開かれ、八十歳で御入滅されるまでの約五十年間色々な教え

をお説きになったのであります。

法華経は、お釈迦様が悟りを開かれてから四十年後、即ち七十歳になつてからお説きになったお経なのです。四十余年の間に説かれた数多くの教えは、人々を法華経の門に導く為の手段の教え、方便の教えであり、法華経こそが唯一の真実の教えであることをお釈迦様ご自身が、お経の中で繰り返し述べておられます。

法華経を説かれる前に、無量義経と言うお経をお説きになりました。この無量義経は法華経の序章ですが、この中に「四十余年末頭真実」(四十余年の間、未だ真実をあらわさず)という有名な言葉が出てまいりました。四十余年間、色々な教えを説いてきたが、まだ真実の法を説いていない。これから説く法華経こそが唯一絶対の真実の法であると申されたのです。

次回につづく



人生に手遅れと言うことはない
気付いた時から運命は転回する